

Rainbow Project 日本語版 会話：都電編はしがき

旅行中の移動の臨場感を出すために、東京都交通局の協力のもと、都電荒川線を貸し切って撮影しました。貸切なので停車してもドアは開かず、駅で待っているお客さんには申し訳ないと思いつつも、そればかり感じているわけにはいかないと撮影に臨みました。

都電編は、監修者が執筆した『旅のお供に今すぐ使えるトルコ語入門』（勉誠出版、2006）をもとにアレンジしています。（→の先が本教材でのタイトルです）

第4課 分かりません。

※入国審査の際に係官に現地の言葉で返事をしてみたものの、その後の会話が聞き取れず「分かりません」といってしまう設定。

第9課 観光地にて(1)

※当日どこに行くのかという予定をガイドに確認し、出かけるという設定。

・都電編では、上述の内容を以下の設定にアレンジしました。

→ **都電編全編**

→ **観光地に着くまで**

※都電での移動中にいろんな観光客が、様々な場面での「分かりません」を発する設定。

→ **観光を終えて**

※楽しめた観光客と、楽しめなかった観光客がそれぞれ雑談している設定。

都電編では、男と女、共通語と方言による「分かりません」を、それぞれの人間と場面にあった言い方で発しています。また、明るく楽しく、あるいは清く正しくのような路線を目指しておりませんので、観光後の感想についてはあえて楽しめなかった方を最後にしました。私の中では、その方がしっくりしましたので。本教材は、いわゆる正しい日本語による会話を主としておらず、さまざまな言葉が入り混じった会話の聴解という観点から制作しております。

カット割りについては、飛行機編や駅前編では当事者同士の会話のみを1カットで撮るといった形式でしたが、都電編ではそれぞれのカットをつないでストーリー仕立てにしてみました。そのせいで学芸会感が増しているのは否めないのですが、現場では撮影できるところと時間が限られているので試行錯誤していますが、まだまだ至らぬ点については課外活動の一環ということでご海容ください。